

迅速化が図れる一般事業資金を創設するとともに、小口事業資金の限度額を引きあげたところである。

○その他の質問項目
「熊谷市の交通政策について」
ほか

災害から市民を守るために

大山 美智子 議員

問

自治会を中心に防災組織が作られているが、災害が起きた時には、人材が必要である。自主防災講習の現役世代の受講者を増やすためにも土日・祝日や夜間等の講習が組めないか。

答

本年十月、県主催の自主防災組織リーダー養成講座が本市で開催される。この講座は、本年度、県内五箇所で開催されるが、講師の日程調整等の関係で、各会場とも平日開催となっている。また、市主催の自主防災組織の研修会を本年度中に開催する予定である。開催に当たっては組織間の情報交換や連携が図れるよう、また、若い世代も参加できるような研修環境を作る必要があると考えており、代表の方等のご意見も

考慮しながら日程等を決めていきたい。

○その他の質問項目
「平和教育について」ほか

遊休農地について

須永 宣延 議員

問

①遊休農地の発生要因は何か②全国一斉に耕作放棄地全体調査を行うとのことであるが、熊谷市はどのように取り組んでいるのか③遊休農地の解消対策は④市民農園開設の手続きはどのようなものか、それぞれ伺いたい。

答

①農畜産物価格低迷に伴う生産意欲の低下、農業従事者の高齢化や兼業化等が主な要因と思われる。②農業委員で組織する遊休農地解消対策委員会に、主に耕作放棄地の調査に関すること、また熊谷市担い手育成協議会に、主に解消方策に関することを諮り、決定いただきたいと考えている。③国の耕作放棄地解消支援ガイドラインでは、所有者自らの耕作再開、担い手等借り手による耕作、企業等の新規参入等が挙げられている。④権利設定のない農園

利用方式では、利用者との利用契約で開設できる。市民農園も、今後の遊休農地解消の一方策と考えている。

○その他の質問項目
「農業委員会事務局」
「農業支援について」ほか

ビオトープで自然を取り戻そう

森 新一 議員

問

①小中学校でのビオトープを含め、生物の生態系に関する環境教育や環境保全の取り組み状況②農業用水路のビオトープの取り組み③今後の取り組み計画④設置していない学校に普及させる考えは、それぞれ伺いたい。

答

①現在、小中学校合わせて、十二校にビオトープがあり、自然への関心や環境保全に対する態度を高めている。②江南地域で用水路を利用した水辺環境整備として、生態系保全水路、親水施設等を整備した。また、箱田用水路に魚類の生息場所を設置した。③熊谷中央地区の排水路に魚類の生息場所を設置する計画となっている。④自然とふれあう場の一つとして、学校に働きかけていきたい。
(学校教育課)

○その他の質問項目
「援農支援事業農業サポーターバンクの設立を」

学校給食法改正と給食費について

小林 甚一 議員

問

①地場産物や郷土食の普及率と活用状況②小中学校の栄養教諭の数③JA直売所から多品目の農産物の提供ができないか④物価高で給食費を値上げする考えは⑤飯食の増食ができないか⑥栄養の改善から食育への転換について、研究会が開かれているのか、それぞれ伺いたい。



本市特産のネギ

答

①米飯は一〇〇%熊谷産のキヌヒカリ、うどんやパンなどは県内産小麦一〇〇%または五〇%のものを

使用し、ネギ等は恒常的に熊谷産を取り入れている。また地元産を使用した献立の工夫を行っている。②現在、本市への配置はない。③JA直売所では給食センターの必要量が賄いきれない。④来年度以降の給食費について検討していく。⑤保護者の意見を伺うことと給食費改定の調査検討を併せて行う必要がある。⑥食育の全体計画を作成し、指導しており、給食関係者の研究協議会等でも食育を推進していく。

○その他の質問項目
「小・中学校のプールの型式と使用日数、管理及び消毒剤について」

熊谷南部開発構想の終結について

新井 昭安 議員

問

①熊谷南部開発構想と②南部地域開発推進室の役割と実績③熊谷南部地域開発推進協議会の役割と実績④実現できなかった理由は、それぞれ伺いたい。

答

①南部地域の産・学・性の高いまちづくりを目指し、昭和五十年代から、県とともに